

今月のトピック

◆会津みなみ農業協同組合営農協議会が設立

11月10日、JA会津みなみ本店において南会津郡内の6町村、町村会、JA福島経済連、JA会津みなみ及び県の関係機関を集め会津みなみ農業協同組合営農協議会が開催されました。

本協議会の活動は南会津郡内6町村や関係機関の農業施策の連携を深め、営農指導体制の強化を目指しており、事務局より提案された協議会の規約及び今後の活動計画が協議会員より承認され、このたび協議会の設立となりました。

今後、営農台帳の整備、地域農業振興計画の策定、生産部会の共計・共販に向けた検討会、営農指導統一のための検討会などを実施していきます。

◆確かな手応え

一促進月間での認定農業者への誘導活動一

南会津地方農業経営基盤強化促進対策協議会は11月の「促進月間」に統一行動日を設定し現地巡回活動を行いました。現地巡回活動は、町村でリストアップした農家を訪問し、認定農業者制度の理解を深めてもらうとともに、認定を受けるために経営改善計画の作成をお願いするものです。

各町村毎に農協・町村・普及センター・農林事務所の担当者で巡回活動チームを編成し、11月19日から25日まで活動を行いました。リストアップされた農業者は12名で、活動の結果、認定農業者をめざす決意を固めた方や、大きな関心を寄せられた方など確かな手応えが感じられました。

協議会では、さらに認定農業者の確保に向け、意欲ある担い手農業者の把握に努めていきます。

◆「尾瀬の自然水」新発売

このたび檜枝岐村より2リットル詰めペットボトルの「尾瀬の自然水」が発売されました。この水は会津駒ヶ岳山麓より採取しまろやかさが特徴で、以前より500ミリリットル詰めものは発売されていましたが、割安で家庭用冷蔵庫にもす

っぱりと入るサイズとして2リットル詰めが発売されました。

価格は2リットルボトル6本入りで1箱2,000円(送料込み)、500ミリリットル20本入りで1,600円(送料別)です。お申し込みは檜枝岐村特産事業所(TEL 0241-75-2445)まで。



まろやかな味わいをぜひお試しください

◆南会津農業士活動研究会を開催

12月1日から2日にかけて南会津地域の指導農業士、女性農業士、青年農業士が参集し活動研究会を開催しました。

初日は、只見町の「湯ら里」を会場に目黒吉久氏を講師にむかえ氏の今日に至る農業経営と坂田・布沢地区のこれからの地域営農の考え方を語っていただきました。

地域営農の問題は、土地基盤・担い手などそれぞれの農業士が各地域で抱える共通の課題であり、参加者は地域農業の振興方策、新規就農者確保のための受け入れ支援方策等について熱心な討議を行いました。

翌日は、只見町で新たに新生産調整推進対策として取り組んでいる「錦鯉」と田子倉ダムの冷水の特長を生かして生産振興を図っている東欧からシベリアが原産の淡水魚「コレゴヌス」の養殖等の現地研修を行いました。

◇森を育てる・森に遊ぶ～きこりの森プロジェクトの活動～

「森の自然と人間の共生できる美しい豊かな森を創造しよう」という考えのもと、きこりの森プロジェクトは平成8年6月に結成され、現在約50名の会員が館岩村の広葉樹の森で遊び、森を育てています。

きこりの森プロジェクトは、館岩村森戸のきこりの店（小椋木材工業術）が企画した伐倒製材見学会（山に入り木を切るところから材木になるまでを見学する会）に参加した人達からの、「木を切るだけでなく森を育てることも体験してみたい」という言葉がきっかけとなり、小椋木材工業術代表の小椋敏光さんが中心となってプロジェクトが企画され、趣旨に賛同した会員により活動が始まりました。

活動は、同社の所有する滝ノ岐山の32ヘクタールの森を舞台に行われています。会員の休日の都合により休日班と平日班に分かれて、木の成長を促すための下刈り作業やヒメコマツの本数・大きさ等の調査を行っています。もちろん山菜やきのこなどの森の恵みを採取したり、ろくろ木工教室や懇親会等の楽しみの部分も忘れません。

プロジェクトの活動経費は全て会員からの会費



きこりの店の前で、平日班の皆さん

（入会金1,000円、年会費10,000円）でまかなわれており、営利は目的としていません。森の自然とふれあうことによって得た感動、人との出会い、僅かばかりの自然の恵みが報酬だとい

います。
何百年後かの美しい森を夢見て活動している会員の方々の思いが、さらに発展した活動に結びついていき、またこのような活動が南会津の他の地域にも広がっていくことを期待します。

先進地研修報告「伊賀の里モクモク手づくりファーム」

モクモク手づくりファームは三重県の北西に位置する阿山町に所在しています。交通の便の良い所にあるとは言えません。雪が降ることを除けば南会津の立地条件にも似ています。

昭和58年に地域の養豚家19名で木酢酸を使用し抗生物質無しで飼育した伊賀豚の生産に始まり、手作りハム工房、手作りウインナー教室など次々に事業を展開し、現在ではファーム内に手作り体験館・バーベキューハウス・地ビール工房・レストラン等の施設を持ち、加工品の販売・手作り体験、また直営店・通信販売、ファンクラブの運営なども行っています。現在従業員が190名、昨年度の売上げが23億円です。

運営は事業開始当初に設立した農事組合法人が生産・加工・交流を、平成3年に設立した有限会社が流通と、事業分担をして行われています。

モクモクの施設内で供給される商品は手作り、素朴、純粹、安心、無添加をモットーに生産され、現在ハム、ウインナーに始まりパン、パスタ、クッキー、地ビールなどが販売されています。原材料は町内外の直営農場より生産された米・野菜・



屋内のレストラン内にブドウが植えられています
大麦・小麦・豚肉・牛肉が供給されています。

ファーム内のほとんどの建物が農業関係のあらゆる補助事業を活用して建てられており、全施設の建設費の3分の1が補助分に相当するそうです。お客さんを迎える建物は大変立派でしたが、対照的に会社の事務所の建物はお世辞にも丈夫そうな建物には見えなかったことが印象的でした。

商品を開発する上でのモットーは技術を外部に頼らないことだそうです。コンサルタントを頼み、海外研修などには行きますが、開発・実行は自分

たちの手で行うそうです。従業員の意見を取り入れ、素朴でも自分たちの手で作り上げた物を販売しています。その方が、従業員の積極性にもつながりその後の商品開発もうまくいくといえます。

従業員の平均年齢は27～28歳。施設の雰囲気や商品のパッケージのデザインなど若い人達のエネルギーを感じました。

施設を案内していただいた中野常務さんより、施設を作る上で参考にしているのはディズニールンドだという言葉を知りました。すぐには理解できなかったのですが、施設を見学しているうちに共通点は「夢」を売る商売であることに気が付きました。モクモクは自分たちの生産物に夢を込めて販売しているのだと思います。その夢に共感する人がモクモクの経営を支えているのだと感じました。

モクモク通信 11月号

「PaPaピハウス」
「フルサービスタム」
「ハンモックの里」
「モクモク学園」
「モクモク田舎文化祭」
「モクモク羊羹会」
「モクモクおもしろ相撲大会」

業務の中でも情報発信は欠かせません

研修会・講習会のお知らせ

内 容	日 時	場 所
農業短期大学校研修	平成11年	
①農産加工研修：パッケージ技術	1/14 10:00～	農業短期大学校内
②農産加工研修：漬物加工	1/22 10:00～	〃
③マネージメントゲームによる企業的経営管理研修	1/19 9:30～	〃
マネージメントゲームの中で受講者一人一人が会社を設立し、経営者として設備投資・生産・販売・雇用等の意志決定をし、マトリックス会計による決算を行い、法人経営を学ぶ。	1/21 17:30	宿泊は校内のあかしや寮が利用可能。
受講料：1,500円（資料代）、		1泊：1,000円
その他の研修		
①平成10年度会津地方認定農業者研修会	1/12	喜多方プラザ
主催：会津農林事務所、県農業会議、他	10:30～15:30	小ホール
内容：基調講演「多様化する農業の担い手と役割分担」 元岡山県農業試験場長 木元英照氏 パネルディスカッション 「魅力ある農業経営の実現に向けて」		
参加費：1,000円（資料代、昼食代）		
②第11回先進的農業者総合研究会	1/20 9:00	京都市北区
主催：社団法人 農業開発研修センター	～1/21 12:00	京都パストラル
内容：講演（講師6名）、分科会、懇親会 （主な講師と演題） 「新基本法答申を地域から考える」 NHK 解説委員 中村靖彦氏 「先進的農業経営の分析と診断を試みる」 近畿大学農学部 教授 西村博行氏 「農家と手を結ぶマーケティングの考え方」 株式会社こめ太郎 専務取締役 森重子氏		参加費：33,000円 （テキスト代、昼食代、懇親会費等） ※ご夫婦又は親子で出席の場合は1人25,000円

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL. 0241-62-5262

寒くない南会津

近年、温暖化の影響からか、雪の少ない比較的暖かい冬が続いている。

ともあれ、当地方に対する偏見とも(?)とれる発言に、「南会津は雪すごいべー」、「田島は寒いそうだ」、「浜通りからの転勤者はブルっている」、「毎日の天気予報は県下で最低になっている」等々。これでは嫁の来手もなくなると一時騒いだそうで、曰く「テレビの田島の表示を消してもらいたい」、「観測場所が川辺で日陰だから悪い」とか。しかし、テレビの表示はともかく、観測を別の場所で計っても同じであったとのこと。

そこで小生の転勤先での冬の実感。

福島～吾妻下ろしで寒い。除雪が下手で道路はデコボコ。

県南～那須下ろしで冬は風がビュービュー毎日寒い。雪が少ない分、道路は滑る。

札幌～雪はほどほど。風が無いので体感温度が高く、寒くない。

－5℃晴れ、「今日は暖かいですね」でワイシャツ姿で外へ。冬も薄着だがコートは厚い。ミラーロード注意。休校などは聞いたこともない。

いわき～1～2cmの雪で転倒、追突事故多発。降れば休校多し。…暖かいのにてである。

南会津～雪は昔ほど多くない。…もっと降ってほしい。気温は確かに低いが札幌と同じく風が無いのであまり寒さを感じない。除雪が完璧。スタッドレスで事故も少ない。休校もなく、皆たくましい。

こう比較してみると、一度は住んでみたい都市ナンバーワンの札幌に類似しているのだが…。

斎藤清「会津の冬」。作品のどれもがやっぱりすっぴりと雪に包まれている。屋根や軒下には、ずしんと雪が積もっている。季節がもたらす厳しさがある。だが、なぜか暖かい。丸くて柔らかい雪だ。ふ厚い雪がそう感じさせるのか。静かな風景がじっくり心を温める。雪や冬に対する認識を改めないといけない。「優しい人柄がにじみ出ていますね」
－朝日の記事より－

冬も、雪も、人も温かい南会津。地酒の熱燗で乾杯しながら

「冬来りなば春遠からじ」の心だあ…。

所長 横田

3ヶ月予報

仙台管区気象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

12月 高気圧と低気圧が交互に通る、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平均気温は平年並みの見込みです。日本海側の降雪量は平年並みの見込みです。

1月 日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

2月 日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。
郵便・FAXどちらでも結構です。

この広報誌は再生紙を使用しております

あて先

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866

FAX 0241-62-5349